

発表者 中鉢 泰平

テーマ 「一人ひとりの多様性を認め合い、個性を生かす教育」

よろしく申し上げます。中鉢と申します。

私は発表のテーマについては、一番、世界中見て回ったのでございますけれども、オランダの教育が非常にいいなということを感じています。なぜかと言いますと、やはり次の4つの教育方法を取り入れるというのを実際に実践や現場を見てまいりました。また、学者、先生方のお役に立てるためにも見てまいりました。

その4つと言いますのは、1つは、モンテッソーリ教育というのがあります。モンテッソーリメソッドに沿った教育です。これがやはり個性を生かす教育。それから、もう1つはルドルフ・シュタイナーといいまして、自由ヴァルドルフ学校です。彼は、領土の問題でオーストリアの出身の人なのですが、今はクロアチア領になっております。

それからさらに、イエナプランというのが、最近特に注目されている教育方法です。さらに今世紀最も世界で注目されたのが、レッジョ・エミリア教育といいまして、これはイタリアで生まれたのですが、この4つについて簡単にお話しさせていただきます。

オランダで一番びっくりしたのは、1つのグラウンドの中に公立学校と私立学校が共存しているということです。その公立学校のもう1つはモンテッソーリスクールという学校なのですが、それは当然グラウンドを共通で使うわけですね。簡単に申し上げますと。

それから、シュタイナー教育というのは校長先生がいらないのです。それで、特に特色があるのは、シュタイナーの考え方は、校舎が90度の角度は子どもにプレッシャーを与えるということで、廊下なども蛇行しているような、日本ですと真っ直ぐ行って、真っ直ぐまた90度で曲がる。教室自体もできるだけ窓などは直角な建築となっています。

それからもう1つ、イエナプランというのはいわゆる簡単に言いますと、横割り教育ではないのです。今、申し上げました教育方法はほとんど縦割りです。ということは、自由に子どもたちが、教室という、自分のデスクもないぐらいですから、持ち物は入り口のロッカーに預けるということで、非常にユニークな方法をしております。

特にヨーロッパ全体に言えることですがけれども、先生方は教える教育はしませんが、子どもたちを観察する。子どもたちが自主的に学んでいるもので困っていることがあると、アドバイスのようなお手伝いをするというのが基本的な考えです。

それから、一斉に教育するというシステムはあまりやりません。一番分か

りやすいのが、運動会というのはヨーロッパにありません。集団教育はあまりないです。もちろん音楽とか科目によってはありますけれどもね。

それから、レッジョ・エミリアというのは子どもの主体性、創造性を非常に尊重する教育でございまして、特に先生、アトリエスタという専門の先生がおりまして、その先生がいろいろアドバイスをするという、非常にユニークな世界のフリースクールといわれる学校のスタイルでございまして。

特にモンテッソーリは、アンネ・フランクが通った学校です。日本ですと将棋の藤井くんです。モンテッソーリスクールを卒園している人として知られています。

いずれにしましても、ヨーロッパは子どもの主体性を重んじた教育の環境を作る、システムを作る。ですから、廊下のコーナーに、日本的に言いますと、机が置いてありまして、子どもによっては隅っこが好きだとか、そこはひなただとか、親しい友達と集中して勉強ができると、そういうような環境づくりをやっております。

それから多様性、学ぶ。しかも、経営のための学校になっておりませんので、私立も公立も同じように国や市が経費を負担するという、非常に商売のための学習、学校をしていないのが、その辺の非常にいいところだといわれております。

以上でございまして。ありがとうございます。

区長 ありがとうございます。医療的ケアを必要とする子どもや障害児が地域の中で楽しい学びができる環境というのが乏しいのだという課題を訴えていますけど、これはどういうところからそういう課題をお考えですか。

中鉢 そうですね。公園の中にもやはり一般の人が、子どもたちが楽しむようなファシリティとかその状況はあるのですが、特にそういうハンデを持ったお子さんたちの遊び場というのが不足しているように思います。それを申し上げたいと思いました。

区長 今回、オランダの話をしていただきましたけれども、これは1つの学校でいろいろな教育法がミックスされて採用されているということなのですね。

中鉢 はい。オランダの小学校を訪れたときに、これは公立学校なのですが、その中にモンテッソーリクラスという教室もある

のです。だから、いろいろな形のスタイルをとっているということです。教育が画一性でないということです。

区 長 なるほど。そうすると、今の日本の教育の在り方、やり方というのは、一人ひとりの個性を伸ばす教育ということから勘案すると違うのではないかというご意見なのですね。

中 鉢 そうですね。でも、最終的には社会に出て活躍できるのが教育だと思いますので、その国によっていろいろな事情があるようです。特にヨーロッパはクラスが少数教育なのです。だから一人ひとりの子どもを観察できますし、モンテッソーリスクールというのも4階の建物なのですが、4階に職員室がある。あとは、その職員室から各コーナーの子どもの活動を観察できるという建物のシステムにもなっているのです。

区 長 ありがとうございます。